

大雄会の 専門家に聞いてみよう!

Daiyukai Health System

糖尿病入院のすゝめ

「これからの糖尿病との付き合いを丁寧にサポート致します」
「糖尿病で入院?」と多くの方は思ったはず。「忙しい、症状もない、そもそも糖尿病で入院?」など...まだまだあると思います。今回からはそんな疑問にお答えしていきます。

第一回「糖尿病の診断です。入院しましょう。」「えっ、入院するの?」

なぜ糖尿病で入院するのでしょうか。
それは糖尿病を良くするために知識の整理と治療の見直しを行い、合併症を評価するためになります。通院でもできそうですが、入院することにもメリットがあります。

通院は短くても1か月毎になることが多いですが、診察間隔が空くため血糖値を良くするまでに時間がかかります。一方で、入院中は毎日診察があるため短期間に集中して治療を受けることができます。血糖を集中的に良くすると、その後仮に血糖値が悪化しても良い状態のことを体が覚えており(メタボリックメモリー)またその効果が持続するため、年単位でみた場合に合併症発症が抑えられる(レガ

シー効果)ことがDCCT研究やUK

(※2)

PDS研究といった糖尿病研究から分かっています。通院でも充分よくすることはできますが、やはりより早いタイミングでより良くしていくことの意義が大きいです。この他にも糖尿病

多いように感じています。
糖尿病での入院について少しお話しましたが、次回は実際入院中に何をしているのか簡単に触れていきたいと思っています。

について丁寧な情報提供ができること、短期間で合併症評価ができること、入院ならではの検査もあること、などのメリットがあります。時間もあ



(※1) ...1型糖尿病患者を対象に行われた糖尿病の大規模調査。
(※2) ...2型糖尿病患者を対象に行われた糖尿病の大規模調査。

るためじっくりと自分自身と向かい合うことができることも良い面です。短期的にみると入院治療はお金と時間がかかりますが、長期的みたときには将来への大切な自己投資になります。実際に治療サポートする側として、入院するとその後の経過も良いことが



監修

内分泌・糖尿病内科診療部長

はしもと まさや
橋本 昌哉 医師

〈主な資格〉

- ・日本糖尿病学会認定糖尿病専門医
- ・日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医

